

哲学思想基本研究I (その2)

2単位 2年(後期)

山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】我々が何かものを考えるときには、さまざまな知識を前提として考えを組み立てる。そうした、「思考の前提」となっているものについて思考することはきわめて困難である。しかしながら「哲学」の仕事とは、そうした「思考の前提」を問い直し、明るみに出そうとするものであるべきだと私は思う。ミシェル・フーコー『言葉と物』を読んで、思考の前提となるべきものの構築過程を知る。

【授業概要】フーコー『言葉と物』研究。毎回、担当者を決め、担当箇所の概要、議論すべき論点、疑問点などを発表してもらう。発表をもとに参加者で議論を行う。おおよそ2, 3週間に一章のペースで進める。

【キーワード】科学と哲学, 哲学

【先行科目】『人間と生命/認知哲学』(0.4), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.2), 『哲学思想基本研究I (その1)』(0.9)

【関連科目】『ヨーロッパ思想研究』(0.3)

【履修上の注意】たくさん本を読むこと。毎回の授業で、関連する文献を紹介します。また、研究書の巻末には参考文献が掲載されています。それらを入手し、読み、報告すること。一ヶ月にどんなに少なくとも1冊、できれば週に1冊のペースで読むこと。

【到達目標】

1. 科学史・科学哲学に対する基礎的な知識を身につける。
2. 自ら哲学的に思考する技術を身に付ける。

【授業計画】

1. イントロダクション:授業の説明など
2. 第6章交換すること(1)
3. 第6章交換すること(2)
4. 第6章交換すること(3)
5. 第7章表象の限界(1)
6. 第7章表象の限界(2)
7. 第7章表象の限界(3)
8. 第8章労働, 生命, 言語(1)
9. 第8章労働, 生命, 言語(2)
10. 第9章人間とその分身(1)
11. 第9章人間とその分身(2)
12. 第9章人間とその分身(3)

13. 第10章人文諸科学(1)

14. 第10章人文諸科学(2)

15. まとめ

【成績評価】担当を分担して報告すること, 3分の1以上の欠席をしないことが必要条件。報告の内容や発表の様子, 議論への参加, 学期末のレポートで総合的に成績評価する。

【再試験】なし。

【教科書】ミシェル・フーコー『言葉と物』新潮社

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218878>

【連絡先】

⇒ 山口 (共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)